

2018年7月19日

ウェザーニュース、ゲリラ豪雨の予想発生回数を47都道府県別に発表 ゲリラ豪雨は8月中旬にかけ集中発生、西日本は昨年比2.4倍予想も ～発生回数は京阪神で200回以上、関東は昨年並も花火大会の開催ピークに集中か～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、突発的かつ局地的に激しい雨や落雷をもたらす“ゲリラ豪雨”に対し、事前対策への意識を高め、被害軽減につなげるため、「ゲリラ豪雨傾向」を発表しました。7月～9月のゲリラ豪雨は、全国で3,852回発生する予想です。全国平均では発生が少なかった2017年とほぼ同程度ですが、高気圧の縁にあたる西日本では2017年比・過去4年(2014年～2017年)平均比ともに増加する地域が多い見通しです。シーズン前半に集中発生し、7月中旬～8月中旬までに全体の約7割が発生するとみられます。被災エリアは少しの雨量でも災害に繋がるケースがあり、また、その他の地域も花火大会の開催ピークにあたるため、最新の雨見解をこまめに確認するようにしてください。

毎夏、突然の激しい雨や落雷による災害が全国各地で多発しており、ウェザーニュースでは少しでも被害を減らせるよう、継続的に情報発信をしていきます。

本プレスリリースの素材のダウンロード	2018年「ゲリラ豪雨傾向」詳細はこちら	
ウェブ版プレスリリース 2018年「ゲリラ豪雨傾向」 https://jp.weathernews.com/news/24176/	スマホアプリ「ウェザーニュース タッチ」をダウンロード後、 「おしらせ」にアクセス	ウェザーニュースウェブサイト 2018年「ゲリラ豪雨傾向」 https://weathernews.jp/s/topics/201807/190055/

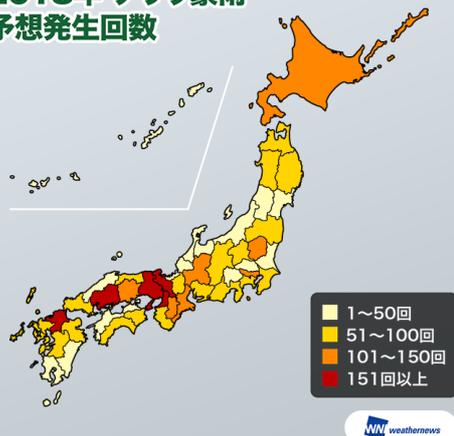
◆ゲリラ豪雨発生回数は全国平均で昨年並、西日本は昨年比2.4倍予想も

2018年7月～9月のゲリラ豪雨(◆注1)は、全国で3,852回発生する予想です。発生回数は全国平均で過去4年平均の9割、発生が少なかった2017年とほぼ同程度とみえています。

西日本では、2017年比・過去4年平均比ともに増加する地域が多く、徳島県(98回)は、2017年比2.4倍、過去4年平均比2.7倍予想となっています。また、広島県では156回、福岡県や京阪神は200回以上発生する見通しです。被災したエリアでは、通常より少ない雨量でも浸水や土砂崩れなど災害に繋がるケースがあるため、最新の雨見解と自治体情報を随時ご確認ください。

その他人口の多い地域をみると、愛知県は78回、東京都は144回、宮城県は15回程度となっています。発生回数が少ない場合でも、一回一回のゲリラ豪雨が被害をもたらす恐れがあるので、油断は禁物です。

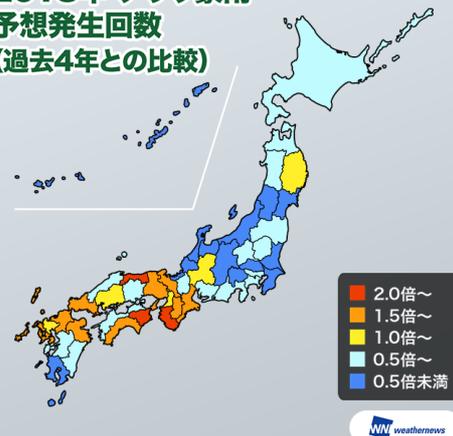
2018年 ゲリラ豪雨
予想発生回数



2018年 ゲリラ豪雨
予想発生回数
(昨年比)



2018年 ゲリラ豪雨
予想発生回数
(過去4年との比較)

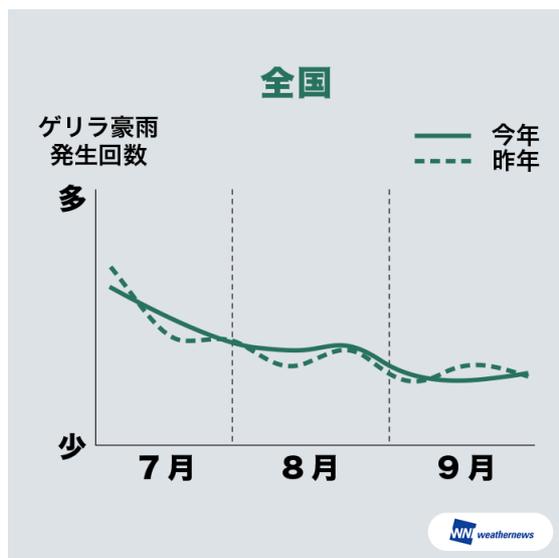


◆8月中旬までにシーズン全体の約7割発生、花火大会の開催ピークに集中か

今シーズンのゲリラ豪雨は“スタートダッシュ型”で、シーズン前半に集中して発生するとみえています。7月中旬～8月中旬だけで、全体の約7割が発生する予想です。

ゲリラ豪雨は、太平洋高気圧が弱まって湿った空気が流れ込んだり、上空の寒気が通過し、大気の状態が不安定になった時に発生しやすい現象です。時期別に気象条件をみていくと、8月上旬までは、湿った空気の影響を受けて、ゲリラ豪雨が発生しやすくなります。ちょうど7月下旬～8月上旬は、関東をはじめ各地で花火大会の開催ピークにあたります。2017年は東京都内の花火大会がゲリラ豪雨により中止となった事例もあるので、今シーズンも天気の変化に注意が必要です。

8月中旬～9月上旬は、しっかりと太平洋高気圧に覆われるため、東・北日本を中心に発生回数は比較的少なくなる見込みです。9月中旬には、台風や低気圧、前線の影響を受けやすくなります。また、朝晩を中心に秋の気配を感じられるようになり、シーズン後半になるにつれてゲリラ豪雨も終息に向かいます。



7月～9月のゲリラ豪雨発生傾向(7月19日までの実績値を含む)

◆高気圧の縁にあたる西日本でゲリラ豪雨発生回数が増加傾向

今シーズンは、エルニーニョやラニーニャの発生はない見通しです。太平洋高気圧が平年よりもやや北に強く張り出す傾向にあるため、高気圧の縁にあたる西日本では湿った空気が流れ込みやすく、ゲリラ豪雨の発生回数が増える予想です。一方、高気圧に覆われやすい東日本や東北は、比較的ゲリラ豪雨が多発することはない見込みです。また、北海道は低気圧や前線の影響を受けやすいため、発生回数は少なくなるとみえています。



◆エリア別のゲリラ豪雨傾向

北 日 本	<p>北日本のゲリラ豪雨の発生回数は、2017 年と同程度の予想です。</p> <p>東北は太平洋高気圧の北への張り出しが強く、湿った空気の影響を受けにくいいため、ゲリラ豪雨の発生はやや少なくなる見込みです。特に高気圧に覆われやすい8月は、発生回数が少なくなっています。ただ、一回一回のゲリラ豪雨が被害をもたらす恐れもあるので、油断はできません。</p> <p>北海道は度々低気圧や前線の影響を受けるため、雨や曇りの日が多くなります。晴れたタイミングでゲリラ豪雨が発生し、8月下旬や9月下旬に発生回数が増加する予想です。</p>	<p style="text-align: center;">北日本</p> <p style="text-align: right;">— 今年 - - - 昨年</p> <p style="text-align: center;">7月 8月 9月</p> <p style="text-align: right;"><small>WU weathernews</small></p>
東 日 本	<p>東日本のゲリラ豪雨の発生回数は、ゲリラ豪雨の少なかった2017年並で、過去4年平均と比べると半分以下の地域がほとんどです。</p> <p>8月上旬までは湿った空気の影響を受けるため、ゲリラ豪雨が発生しやすくなります。ちょうど7月下旬～8月上旬は、各地で花火大会の開催ピークにあたります。2017年は東京都内の花火大会がゲリラ豪雨により中止となった事例もあるので、今シーズンも天気の変化に注意が必要です。</p> <p>その後は段々と高気圧にしっかりと覆われ始めるため、発生回数は減少傾向となり、お盆休みにゲリラ豪雨が多発する可能性は低いとみています。ただ、一回一回のゲリラ豪雨が被害をもたらす恐れもあるので、油断はできません。</p> <p>9月に入ると台風や前線、低気圧の影響を度々受けるため、発生回数はさらに減少する見込みです。</p>	<p style="text-align: center;">東日本</p> <p style="text-align: right;">— 今年 - - - 昨年</p> <p style="text-align: center;">7月 8月 9月</p> <p style="text-align: right;"><small>WU weathernews</small></p>
西 日 本	<p>西日本のゲリラ豪雨の発生回数は、2017年比・過去4年平均比ともに増加する地域が多い予想です。特に広島県では156回、福岡県や京阪神は200回以上発生する見通しです。</p> <p>ゲリラ豪雨はシーズン前半に集中発生し、8月は高気圧の縁を流れる湿った空気の影響で、東・北日本よりも発生しやすくなります。お盆休みもゲリラ豪雨が発生する可能性があるため、ボランティア活動や復旧作業などは空の変化にご注意ください。</p> <p>9月になると、台風や前線、低気圧の影響を度々受けるため、ゲリラ豪雨の発生回数は急激に減少する見通しです。</p> <p>被災したエリアでは、通常より少ない雨量でも浸水や土砂崩れなど災害に繋がるケースがあるため、最新の雨見解と自治体情報を随時ご確認ください。</p>	<p style="text-align: center;">西日本</p> <p style="text-align: right;">— 今年 - - - 昨年</p> <p style="text-align: center;">7月 8月 9月</p> <p style="text-align: right;"><small>WU weathernews</small></p>

◆都道府県別のゲリラ豪雨傾向

エリア	都道府県	2018年			2017年(回)	過去4年平均(回)		
		発生回数(回)	2017年比(倍)	過去4年平均比(倍)				
北日本	北海道	北海道	147	1.2	0.9	118	169	
	東北	青森県	52	0.9	0.8	61	67	
		秋田県	55	0.9	0.9	60	60	
		岩手県	100	0.8	1.0	122	96	
		山形県	8	1.0	0.2	8	53	
		宮城県	15	0.8	0.2	19	76	
		福島県	63	1.4	0.5	46	124	
東日本	関東甲信	茨城県	36	0.8	0.2	47	159	
		栃木県	125	1.0	0.6	125	207	
		群馬県	65	0.9	0.5	71	127	
		千葉県	68	1.2	0.4	59	187	
		東京都	144	1.1	0.9	134	168	
		埼玉県	37	0.9	0.3	41	132	
		神奈川県	70	0.9	0.8	78	93	
		山梨県	13	0.6	0.2	23	57	
	東海	長野県	55	0.5	0.3	107	210	
		静岡県	79	0.7	0.5	106	154	
		愛知県	78	0.9	0.5	85	150	
		岐阜県	129	1.2	1.0	108	136	
	北陸	三重県	136	1.7	1.5	82	89	
		新潟県	12	0.5	0.2	26	74	
		富山県	10	0.5	0.2	19	42	
		石川県	3	0.6	0.3	5	12	
	西日本	近畿	福井県	6	0.9	0.4	7	15
			滋賀県	97	0.8	0.9	121	106
			京都府	239	1.5	1.7	164	140
奈良県			148	1.2	1.5	120	99	
兵庫県			278	1.4	1.6	195	178	
大阪府			243	1.4	1.2	177	210	
中国		和歌山県	100	2.0	2.2	50	45	
		鳥取県	72	1.6	2.0	46	36	
		島根県	17	2.1	0.8	8	20	
		岡山県	122	1.0	0.9	122	135	
四国		広島県	156	1.3	1.3	120	124	
		山口県	72	1.0	1.6	72	44	
		香川県	19	1.4	0.9	14	21	
		徳島県	98	2.4	2.7	41	36	
九州		愛媛県	34	1.5	0.9	22	38	
		高知県	66	1.4	1.6	48	42	
		福岡県	221	1.1	1.5	204	150	
		大分県	94	1.8	1.9	52	50	
		佐賀県	72	0.9	1.4	77	52	
	長崎県	67	0.8	1.5	88	46		
	熊本県	51	0.8	0.5	68	95		
南西諸島	沖縄	宮崎県	33	0.8	0.5	39	60	
		鹿児島県	14	0.6	0.2	22	59	
全国			3,852	1.1	0.9	3,479	4,511	

※本傾向は、ウェザーニューズの長期予報と、類似年の過去データを元に統計的に算出

※2018年の予想と過去4年平均の発生回数は7月6日～9月30日、2017年の発生回数は7月12日～9月30日で算出

◆注 1. “ゲリラ豪雨”発生回数の求め方

“ゲリラ豪雨”をもたらす雨雲・雷雲は、予測可能な前線による雨雲とは異なり、“突発的”かつ“局地的”に発達するのが特徴です。また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1,300 か所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。そこで当社では、スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」の全国ユーザーから届く降雨報告(◆注 2)において、“ザーザー”(5 段階中の 2 番目)以上の強い雨が報告され、かつ、過去 1 時間に雨の報告が 2 割以下の場合を“ゲリラ豪雨”とし、10km 四方ごとにカウントしています。

◆注 2. 降雨報告について

スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」を通し、“ポツポツ”、“パラパラ”、“サー”、“ザーザー”、“ゴォー”の 5 段階で報告されます。